

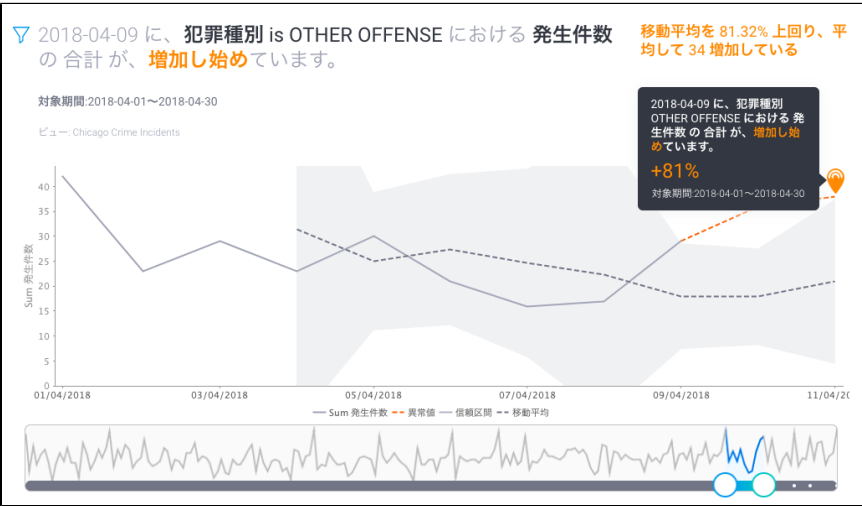
Yellowfin

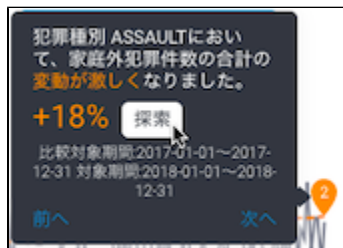
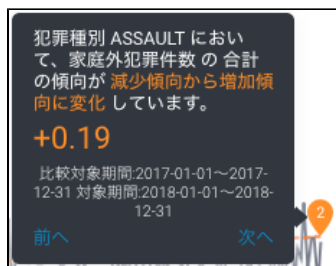
-
-
-
-
-
-
-
-
-
-
-
-
-
-
-



1	
2	
3	-
4	

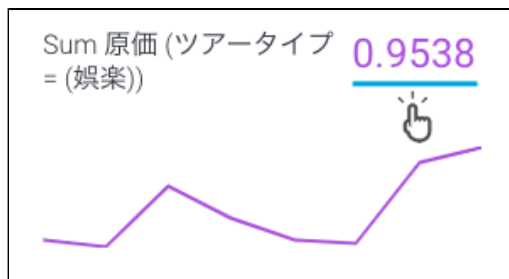
5	
6	
7	
8	Yellowfin
9	Yellowfin
10	Yellowfin
11	
12	
13	
14	





Yellowfin

- 0
- -1



1.



2.

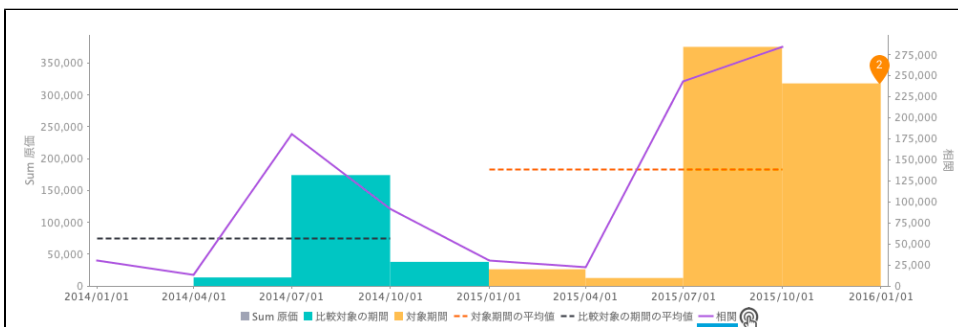


3.

4.



5.





解析

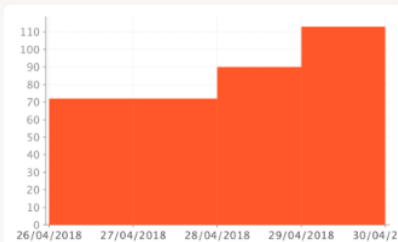
[解析レポートを開く](#)

以下の解析は、このシグナルの生成元であるビューの詳細データを使用して構築されています。複数のディメンションについて、シグナルが発生した期間と比較期間のふたつの期間を比較して、その違いに貢献した要因を識別します。一般的には、違いが大きいほどシグナルが発生した要因の理由になり得ると言えます。

最も関連性の高い結果は1〜3つの変数の組み合わせによってグループ化され、重要度の高いものから順に並べられています。

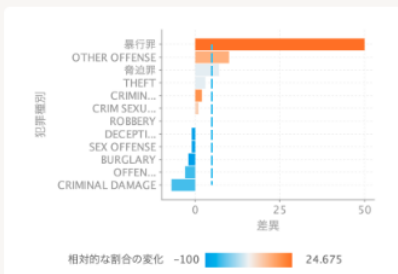
グラフ

説明

時間の経過と数値
値が高いほど悪い

このグラフは 事件発生日 を軸に (26/04/2018 ~ 28/04/2018) 対 (28/04/2018 ~ 30/04/2018) の 事件発生日 の Sum 発生件数 を表しています。

- Sum 発生件数の平均は 87 で、標準偏差は 17 でした。
- 日ごとの Sum 発生件数 を集計した結果、もっとも少なかったのは、2018/04/26 - 2018/04/26 の 72 で、もっとも多かったのは、2018/04/29 - 2018/04/29 の 113 で、その差は 41 でした。
- 4 日の Sum 発生件数 の合計は 347 でした。
- Sum 発生件数 が最も 増加 したのは 28/04/2018 - 28/04/2018 の間でした。その値は 90 から 113 で、25.56% 増加 しました。

犯罪種別 × 差異
値が高いほど悪い

このグラフは 犯罪種別 を軸に、事件発生日 の (26/04/2018 ~ 28/04/2018) と (28/04/2018 ~ 30/04/2018) の Sum 発生件数 の差異を表示して、相対的な変化によってハイライトしています。

犯罪種別 は Sum 発生件数 の差異を説明する最も重要な変数です。

- 比例して、暴行罪、OTHER OFFENSE、脅迫罪 からより多くの Sum 発生件数 がもたらされています。これらは差異の合計の 77.00%を占めています。
- (26/04/2018 ~ 28/04/2018) の Sum 発生件数 は、(28/04/2018 ~ 30/04/2018) と比較すると、BURGLARY がわずかに減少しており、-2 の差があります。興味深いことに、(26/04/2018 ~ 28/04/2018) の Sum 発生件数 合計の割合は、(28/04/2018 ~ 30/04/2018) と比較してはるかに低く、マイナスの相対的変化が -100% と、最も大きいことを示しています。
- 差異の最小値は CRIMINAL DAMAGE の -7 で、差異の最大値は 暴行罪 の 50 です。その差は 57 です。
- (26/04/2018 ~ 28/04/2018) の BURGLARY、>、他 1 件の Sum 発生件数 がゼロなので、(28/04/2018 ~ 30/04/2018) から Sum 発生件数 が 4 減少しています。



シグナルタイプ変動に関する解析結果はありません。

最近のドラフト(編集中)ストーリー

なぜ4月11日に犯罪が急増し...

2019-05-24

ストーリーに追加



新マーケティングプログラム好調発進！

2019-03-18

3.

もしくは、新規ストーリー作成

タイトル

掲題のシグナルについて

新規ストーリー作成



4.



グラフが追加されました。

ストーリーを開きますか？シグナルの探索を続けますか？

続行

ストーリーを開く

5. Yellowfin

ディスカッション

関連性

解析

ストーリー

ストーリー

タイトル

掲題のシグナルについて

先月の増加分について

ステータス

公開日

ドラフト(編集中)

アクション

閲覧 | 編集

編集

• -

• -

